

安全・品質上の注意2	一般整備情報11
・SRS エアバッグ・プリテンショナーシート	・コネクター端子の点検11
ベルトに関する注意2	・電気系統の点検12
・一般的な注意2	・コントロールユニット及び電子部品12
・無線装置取付けに関する注意3	・テストランプによる点検14
本書の見方5	・4WD 車の点検整備上の注意15
・概要5	・CONSULT-16
・用語の定義5	・ジャッキ・リフトアップ支持位置18
・単位の定義5	・けん引19
・記載の内容5	・標準ボルトの締め付けトルク21
・構成部品図6	・パワーツール使用に関する注意21
・故障診断6	車両識別情報22
・略語表9	・車台番号打刻位置及びモデルナンバー レートなど22

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

安全・品質上の注意

PFP:00030

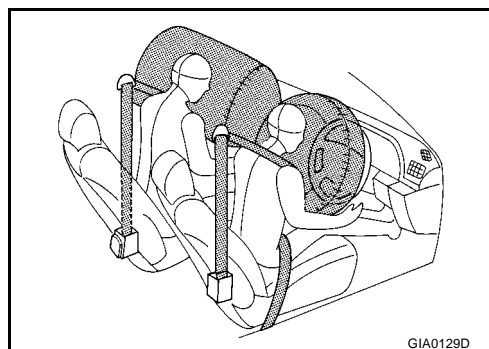
SRS エアバッグ・プリテンショナーシートベルトに関する注意

JAS0010Z

両席（運転席及び助手席）SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステムは、併用することにより前面衝突時の運転席及び助手席乗員の頭部への衝撃を緩和させる。

前席 SRS サイドエアバッグシステムは、シートベルト、高強度車体及びエネルギー吸収ドアとの併用により、側面衝突時の前席乗員への頭部及び胸部への衝撃を緩和させる。

SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステムは、エアバッグモジュール（ステアリングホイール、インストルメントパネル助手席側、フロントシート側面）、プリテンショナーシートベルト、エアバッグセンサーユニット、スパイラルケーブル、サテライトセンサー、警告灯から構成されている。



警告：・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステム関連の構成部品脱着及びハーネス脱着は、キースイッチ OFF で、バッテリーマイナス端子を外してから 3 分以上放置後行うこと。（エアバッグセンサーユニット内の補助電源回路に蓄えられた電気を放電させるため）

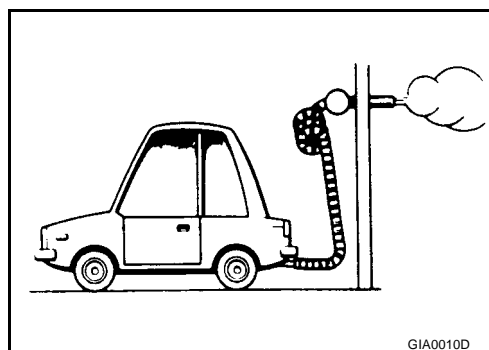
- ・ 構成部品の脱着に、エアツール及び電動ツール等は使用しないこと。
- ・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルトシステム用のハーネスは、ハンダ等による修理は禁止である。また、ハーネスの噛み込み及び他部品との干渉に十分注意すること。
- ・ SRS エアバッグ及びプリテンショナーシートベルト回路及び単品状態での点検をするときはサーキットテスター等の電気テスターを使用しないこと。（テスターの微電流による作動防止）
- ・ エアバッグモジュール及びプリテンショナーシートベルトのコネクターに、ドライバー等の異物の差し込みは禁止である。（静電気による作動防止）
- ・ SRS エアバッグには、識別用として黄色のハーネスコネクターを使用し、他のハーネスとの区別をしている。
- ・ 安全に整備作業を行うため、「SB シートベルト」及び「SRS SRS エアバッグ」を参照すること。

一般的な注意

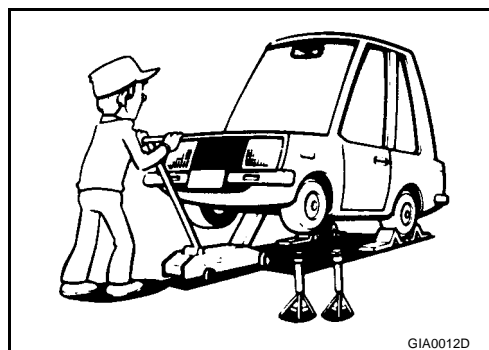
JAS0010G

安全な作業

- ・ 排気ダクトのない換気状態の悪い作業場では長時間エンジンを運転しない。
- ・ 作業場は換気を良くし、可燃物を置かない。ガソリンなどの可燃物や危険物を取り扱うときは特に注意する。
- ・ オイル交換後の廃油、部品洗浄油等は、法令、条令などで定められた方法により処理すること。
- ・ 高温となる箇所、回転部、しゅう動部を作業する場合は火傷や怪我に注意する。

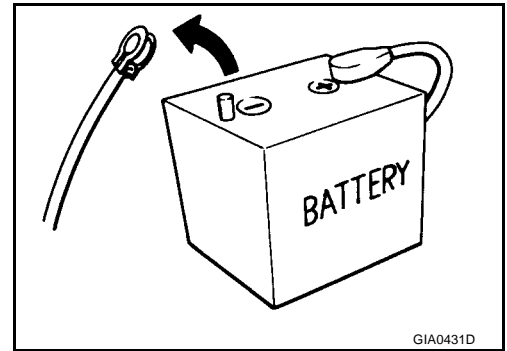


- ・ 車両をジャッキアップした状態で作業せず、所定の位置をリジッドラックで支えてから作業する。
- ・ リフトアップするときは、所定の位置で支え、安全装置をかける。
- ・ エンジン、サスペンション等の重量物を取り外すときは、車両を含めバランスを失って落とさないように注意する。

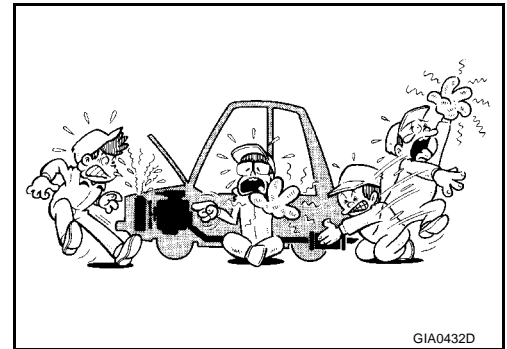


安全・品質上の注意

- バッテリー電源を必要としない修理作業を行う時は、作業を始める前にキースイッチをOFFにし、バッテリーのマイナス端子を外す。
注意： バッテリー端子を外すと、ラジオ及び各コントロールユニット等で記憶されているメモリーが消去される。



- エンジン停止直後はやけどをするので、高温になった金属部品に触れない様注意する。また、エンジンが高温の時は、ラジエターキャップなど冷却水系の部品を外さないこと。
- 安全で効率の良い修理作業を行うため、指定されている場合は適切な汎用工具または特殊工具を使用する。
- 燃料タンクが一杯になり、給油ノズルの自動弁が閉じた時は、無理に燃料の充填を続けないこと。燃料が溢れて飛び散り、火災の原因となる。

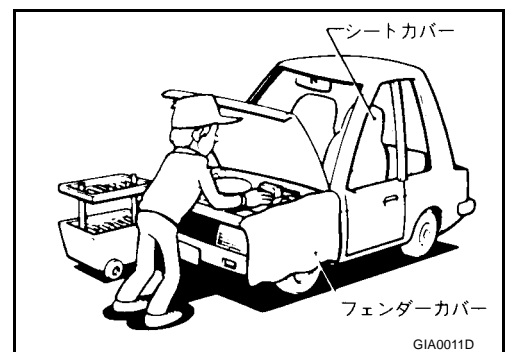


正確な作業

- 故障現象を十分把握した上で診断し、効率的な作業を行う。
- 取り外し、分解をする場合、あらかじめ正規の組付状態を確認しておく。必要に応じて機能に影響のない所に合いマークを付ける。
- オイルシール、ガスケット、パッキン、O リング、ロックワッシャー、コッターピン、セルフロックナットなどを外した場合、その項の指示（再使用不可部品）に従い、新品に交換する。
- テーパーローラーベアリング、ニードルベアリングはインナーレースとアウターレースをセットで交換する。
- 取り外した部品は混同しないよう順序よく整理しておく。
- 分解した部品は、点検や組み付ける前に清掃、洗浄作業をする。
- 部品を交換する場合は、日産純正部品を使用する。
- 給油脂及びシーリング剤等は指定のものを使用する。
- 圧力がかかっている配管、ホース類を取り外すときは、圧力を除去する。
- 燃料、オイル、冷却水、排気、バキュームシステムを修理したときは、漏れ点検を確実にを行う。

車両の保護

- 車を汚したり傷つけないようフェンダーカバー、シートカバー、ハンドルカバー、紙マット等を使用する。



無線装置取付けに関する注意

業務用及びアマチュア無線又は携帯電話を取り付けるとき、取付位置により電子制御システムに影響を及ぼす可能性があるため下記を確認する。

- アンテナはECCSコントロールユニットから出来るだけ遠くにする。

安全・品質上の注意

- アンテナフィーダー線はコントロールユニットハーネスから 20cm 以上離す。
- 電波障害をなくすためにアンテナ及びフィーダー線を調整する。
- 車のラジオのアースを確かめること。

本書の見方

PF0:00008

概要

JAS0010I

本編は「脱着、分解、組み付け、点検、調整」及び「故障診断」についての読み取り方を説明したものである。

用語の定義

JAS0010J

- 警告： 守らないと生命の危険、又は重大な障害につながる恐れのある事項及び作業要領
- 注意： 守らないと障害や事故、又は車両や構成部品の損傷につながる恐れのある事項及び作業要領で、特に注意すべき事項
- 参考： 作業を容易にするための補足説明
- 基準値： 点検、調整時の許容範囲
- 限度値： 点検、調整時に超えてはならない最高値、又は最低値

単位の定義

JAS0010K

本書で使用している締付トルク、圧力等の数値は最初に「SI 単位 (国際単位)」で記載し、次の { } 内に「メートル単位」を併記してある。

例)

締付トルク： 59 ~ 78 N·m {6.0 ~ 8.0 kg·m}
 SI 単位 {メートル単位}

主な切り替え単位

量	SI 単位	従来単位	SI への切換係数
加速度	m/s ²	G	9.80665
トルク、モーメント	N·m	kgf·m	9.80665
力	N	kgf	9.80665
圧力	MPa	kgf/cm ²	0.0980665
	kPa	mmHg	0.133322
仕事率・動力効率	kW	PS	0.735499
	W	kcal/h	1.16279
体積	cm ³	cc	1
バネ定数	N/mm	kgf/mm	9.80665
燃料消費率	g/kW·h	g/PS·h	1.3596

従来単位を SI でも使用して良いもの

記載の内容

JAS0010L

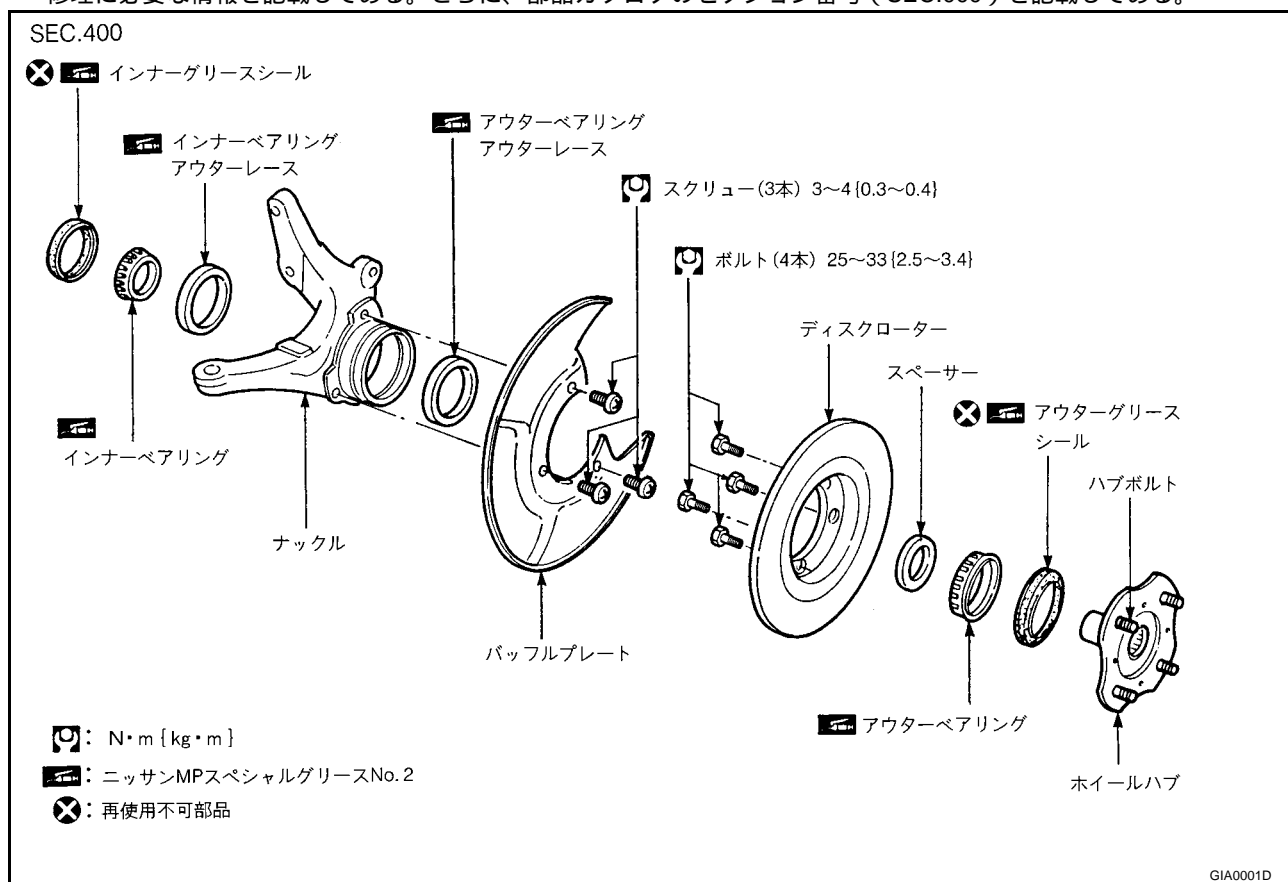
- 注意事項： 各編の最初にその編独自の注意事項について記載する。
- 準備品： 各編の最初と故障診断項目の最初に、作業前に準備すべき特殊工具、計器等について記載している。
 ただし、整備工場に常備されていると思われる一般の工具については省略してある。
- 説明文： 適切な作業を行うため作業方法、留意点、特殊工具、各種整備情報について記載してある。

注意： 目視点検及び取外部品の清掃、洗浄は原則として記載を省略してあるが、実作業においては実施すること。

構成部品図

JAS0010M

構成部品図（図を参照）には脱着、分解、組立作業において必要な締付トルク、給油脂箇所、再使用不可部品、及び修理に必要な情報を記載してある。さらに、部品カタログのセクション番号（SEC.000）を記載してある。



GIA0001D

構成部品図内で使用されている記号一覧

記号	意味	記号	意味
☒	トルク管理が必要な部位と規定トルク △~△N・m (○~○kg・m) の場合、 基準トルクは中央値	☒	再使用不可部品
🛢️	油脂の塗布を必要とする部位と指定油脂	ワセリン	ワセリンの塗布を必要とする部位
🛢️	潤滑剤の塗布を必要とする部位	★	選択して使用する部品
🛢️	シーリング剤の塗布を必要とする部位	☆	調整して使用する部品
👁️	目視点検を必要とする部位		

GIA0433D

故障診断

JAS0010N

注意: 故障診断手順は故障原因を効率よく発見する手順を示している。診断を実施する時は、下記内容に留意すること。

- 故障診断を実施する前に、“基本点検”、“現象別故障診断早見表”、“診断フロー”を読むこと。
- 修理後、不具合が完全になくなったか確認する。
- 部品やハーネスコネクタの位置については、各セクションの“構成部品取付位置”を参照する。

本書の見方

- 簡易点検には回路図を活用する。回路の導通をサブハーネスを含めて詳細に点検する時は、配線図集を見てコネクタを識別し、ハーネスのレイアウトを確認すること。
- 回路の導通を点検する時はキースイッチを必ず OFF にすること。
- コネクタで電圧を点検する時は、バッテリー電圧を事前に測定しておくこと。
- 診断や点検を終了した後、ハーネスコネクタをすべて元どおり接続したか確認すること。

GI

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

本書の見方

診断記号

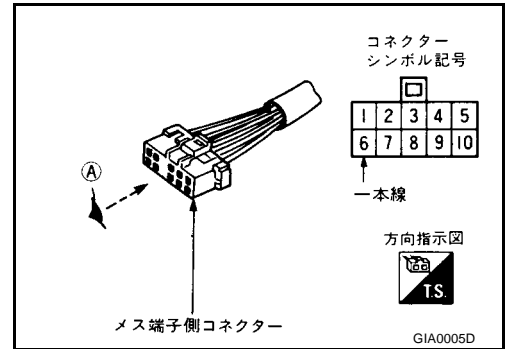
記号	説明	記号	説明
	ハーネスコネクタを分離後に点検		電流レンジで点検
	ハーネスコネクタを接続後に点検		CONSULT を使った手順
	キー SW にキーを差し込む		CONSULT を使わない手順
	キー SW からキーを抜く		A/C SW を ON にする
	キー SW を OFF にする		A/C SW を OFF にする
	キー SW を ON にする		ファン SW を ON にする
	キー SW を START にする		ファン SW を OFF にする
	キー SW を OFF から ACC にする		バッテリー電源に直結する
	キー SW を ACC から OFF にする		運転状態
	キー SW を OFF から ON にする		バッテリー端子を外す
	キー SW を ON から OFF にする		ブレーキペダルを踏む
	エンジン始動禁止、又はエンジン停止状態で点検		ブレーキペダルを離す
	エンジン始動、又はエンジン回転状態で点検		アクセルペダルを踏む
	パーキングブレーキを効かせる		アクセルペダルを離す
	パーキングブレーキを解除する	<p>ECCS C/U 等の端子数の多いコネクタ端子を示す。</p> 	
	エンジンを十分に暖機後、点検		
	電圧レンジで点検		
	抵抗レンジで点検		

GIA0004D

ハーネスコネクタの記号

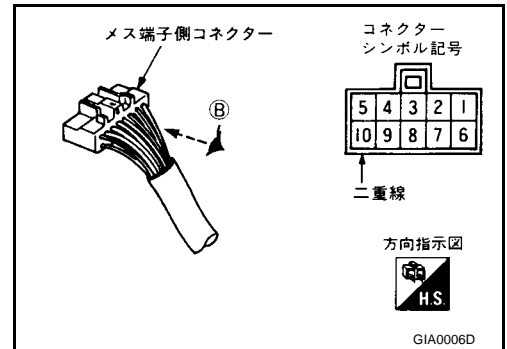
メス端子側コネクタの場合

- A 方向(端子側)からハーネスコネクタを見た場合は、コネクタ記号の外枠を 1 本線で表してある。さらに、方向指示記号として白抜き文字で TS (ターミナルサイド) と表示してある。



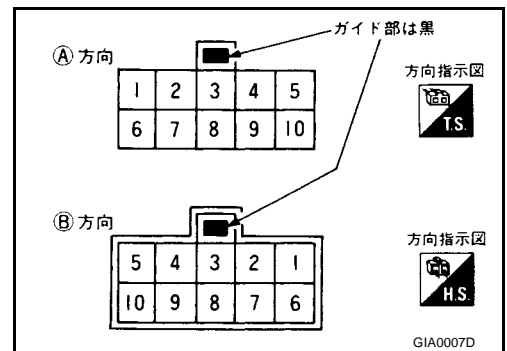
- B 方向(ハーネス側)からハーネスコネクタを見た場合は、コネクタ記号の外枠を二重線で表してある。さらに、方向指示記号として白抜き文字で HS (ハーネスサイド) と表示してある。

- A 方向、又は B 方向から見たコネクタ記号の端子配列は、見た方向をそのまま表示しており、A 方向と B 方向では逆になる。



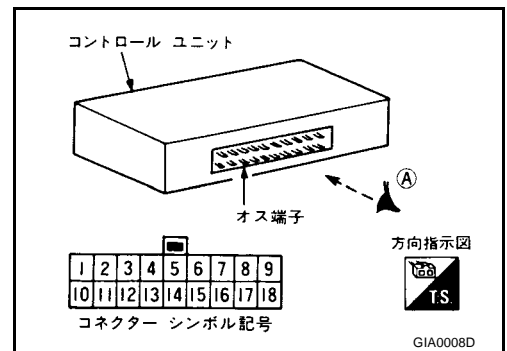
オス端子側コネクタの場合

メス端子側コネクタの表示と同じであるが、メス端子と区別するためオス端子コネクタガイド部を黒く塗りつぶしてある。



コントロールユニット等のユニット単体の場合

コントロールユニット単体の場合は、A 方向のみとなるため図の様に表示する。



略語表

JAS00100

略語	説明	略語	説明
A/C	エアコンディショナー	IPDM	インテリジェントパワー ディストリビューション
A/T	オートマチックトランスミッション	L/B	リーンバーン

本書の見方

略語	説明	略語	説明
ABS	アンチロックブレーキシステム	E/R	モジュールエンジンルーム
ACC	アクセサリ	LH	左
ADS	アクティブダンパーサスペンション	L.S.V	ロードセンシングバルブ
ALT	オルタネーター	L/U	ロックアップ
ASCD	オートスピードコントロールデバイス	LED	発光ダイオード
ASSY	アッセンブリー	LLC	ロングライフクーラント
AV	オーディオビジュアル	LSD	リミテッドスリップデフ
BAT	バッテリー	M/T	マニュアルトランスミッション
BC バルブ	ブーストコントロールバルブ	NAVI	ナビゲーション
BCM	ボディコントロールモジュール	O/D	オーバードライブ
BPT バルブ	バックプレッシャートランスデューサー (排圧コントロール)	OHC	オーバーヘッドカムシャフト
C/B	サーキットブレーカー	OHV	オーバーヘッドバルブ
C/P	クランクプーリー	OS	オーバーサイズ
C/U	コントロールユニット	P/S	パワーステアリング
CD	コンパクトディスク	P/W	パワーウィンドー
Cyl	シリンダー	PBR	ポテンショバランスレジスター
DOHC	ダブルオーバーヘッドカムシャフト	PTC	ポテンショテンプコントロール
DSP	デジタルシグナルプロセッサ	PTO	パワーテイクオフ
EGR	エキゾーストガスリサーキュレーション	RH	右
ELR	エマージェンシーロックングリトラクター	RR	後
ENG	エンジン	S/V	ソレノイドバルブ
EXH	エキゾースト	SAS	スローアジャストスクリュー
F/L	フュージブルリンク	SMJ	スーパーマルチジャンクション
FICD	ファーストアイドルコントロールデバイス	SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
FPCM	フューエルポンプコントロールモジュール	TAS	スロットルアジャストスクリュー
FR	前	TCS	トラクションコントロールシステム
GPS	グローバルポジショニングシステム	TCU	タイムコントロールユニット
H/B	ハッチバック	Tr	トランジスター
H/T	ハードトップ	TV バルブ	サーマルバキュームバルブ
HEC	ハイブリッドエレクトリックコントロール ユニット	US	アンダーサイズ
I/P	アイドルプーリー	VENT	ベンチレーション
IAA	アイドルオーギジアリーエアユニット	VTC	バルブタイミングコントロール
IAS	アイドルアジャストスクリュー	VVT バルブ	ベンチュリーバキュームトランス ジューサーバルブ
IGN	イグニッション		
ILL	イルミネーション		
INT	インテーク		

一般整備情報

PFP:00009

コネクタ端子の点検

JAS0010P

GI

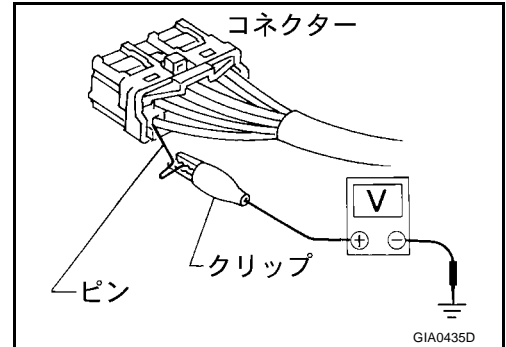
コネクタの点検要領

回路点検時に不適切にコネクタの点検を行うとコネクタの損傷や接続不良をおこす。電圧計などのプローブでは、コネクタに正確に差し込むことができない恐れがあるため、下記の要領に従いワニ口クリップと“T”ピンを使って正しく点検すること。

ハーネスサイドからの点検

耐水タイプでない標準のコネクタの場合は、“T”ピンを使ってハーネスサイドから差し込んで点検する。

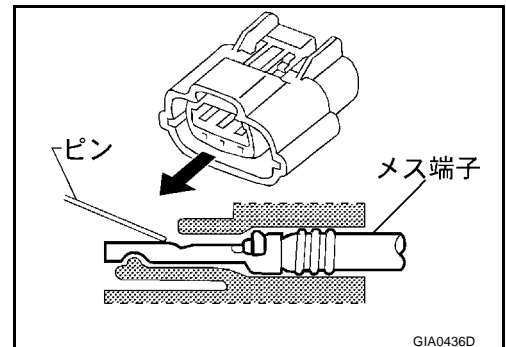
- 注意：**
- ECCS C/U のようなリヤカバーのあるコネクタの場合は、点検の前にリヤカバーを外すこと。
 - 耐水タイプのコネクタの場合は、シールを傷める恐れがあるのでハーネスサイドからの点検は行わないこと。



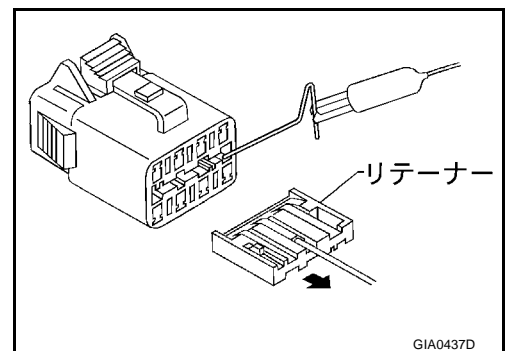
ターミナルサイドからの点検

メス端子

- 各メス端子には、中に小さな段差があるので、その段差に沿って“T”ピンを差し込んで点検する。
- 注意：**メス端子には同じタイプのオス端子以外のものは差し込まないこと。



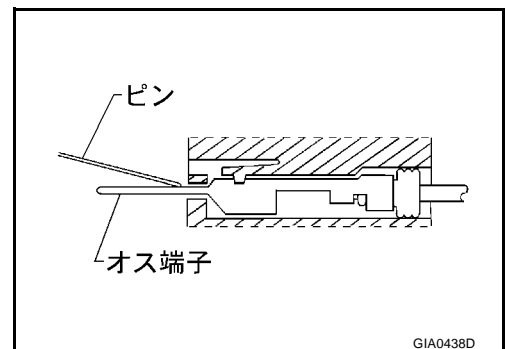
- 段差を持たないメス端子の場合は、リテーナーを外してから点検する。



オス端子

各オス端子表面に“T”ピンをあてて点検する。

- 注意：**端子を曲げないこと。



B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

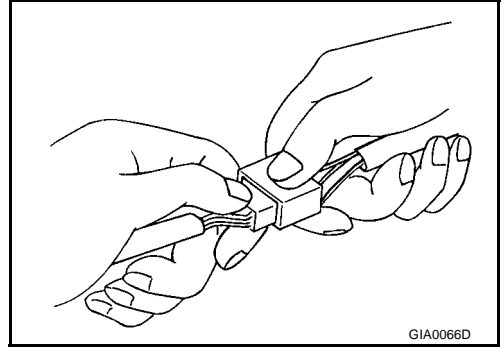
L

電気系統の点検

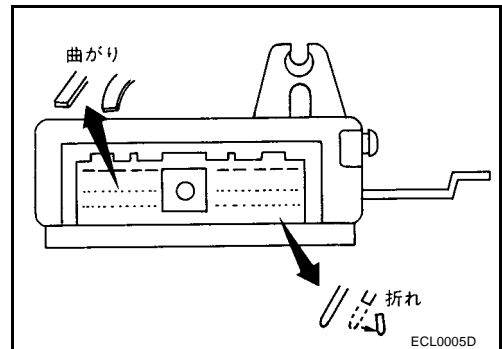
JAS0010Q

概要

- 故障現象が明らかに電気系統に起因すると推察される場合は、ヒューズ及びヒューズブルリンクの溶断、コネクタ付近の断線、端子抜け、かん合不良などを点検し、故障診断を行う。
- ヒューズ及びヒューズブルリンクが溶断した場合は、溶断した原因を調べ修復後、必ず指定容量のヒューズ及びヒューズブルリンクに交換する。
- コネクタの取り外しは、コネクタ本体をつかんでこじったり無理な力を加えない。
- ハーネスは引っ張らないこと。
- ロックタイプの取り外しは、コネクタのロック部を外して、コネクタ本体をつかんで取り外す。



- コネクタの取り付けは、端子の曲がり及び破損がないことを確認して、確実に接続する。
- ロックタイプの取り付けは、コネクタが確実にロックするまで差し込む。
- 部品取り付けの際、ハーネスの突っ張り、かみ込みがないように取り付ける。

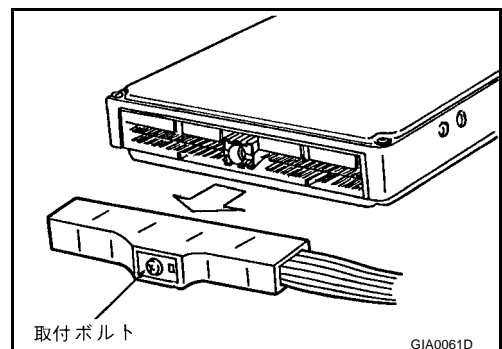


コントロールユニット及び電子部品

JAS0010R

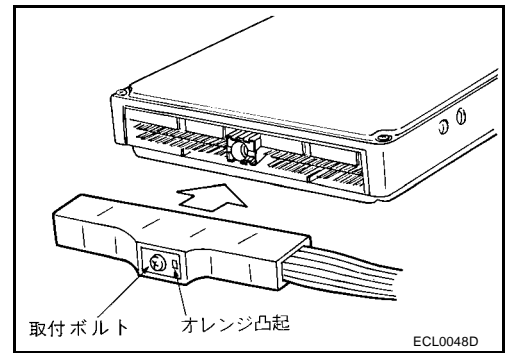
取り扱い上の注意

- バッテリーの逆接続は、絶対に行わないこと。
- 車両により指定された部品以外は装着してはならない。
- コントロールユニットを交換する前にコントロールユニットの入出力点検と構成部品の機能点検を確認すること。
- コネクタの取り外しは、こじったり無理な力を加えない。
- ボルトでの締付タイプの取り外しは、コネクタの取付ビスを緩めてコネクタ本体をつかんで取り外す。

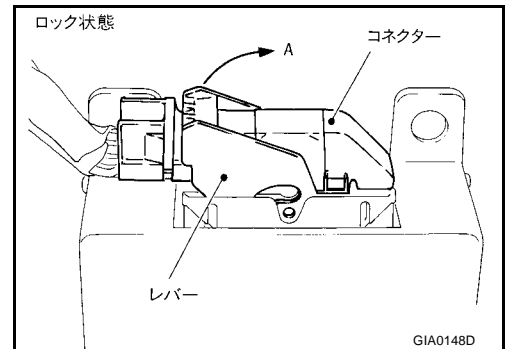


一般整備情報

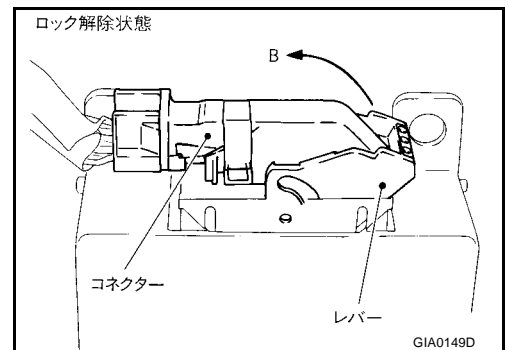
- コネクタの取り付けは、端子の曲がり及び破損がないことを確認して、確実に接続する。ボルトでの締付タイプの取り付けは、コネクタの着色突起が面一になるまで取付ビスを回して確実に固定する。



- レバー式ロックタイプの取り外しは、レバーを図矢印A方向に起し、コネクタを取り外す。



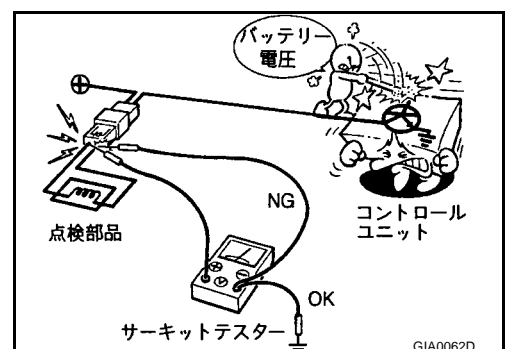
- レバー式ロックタイプの取り付けは、レバーを図矢印B方向に倒し、カチッと音がするまで押して取り付ける。



- 落下させたり、叩いたり強い衝撃を与えない。
- コントロールユニットは、急激な温度変化による水滴の付着や雨滴、水はねなどが掛からないように注意する。もし、水滴が付着した場合、十分乾燥してから車両に装着する。
- 油分がコントロールユニットコネクタに付着しないように注意する。
- 揮発油によるコントロールユニット洗浄は避ける。
- コントロールユニットは、上下のカバーなど分解はしない。



- サーキットテスターで測定するときのテスト棒の位置は、近接して行くとテスト棒同士が接触しやすく、接触すると回路がショートし、バッテリー電圧がコントロールユニットにかかりコントロールユニット内のパワートランジスタが損傷することがあるため、テスト棒間を極力離れた測定方法を取る。
- コントロールユニットの入出力信号点検時には指定のチェックアダプターを使用する。

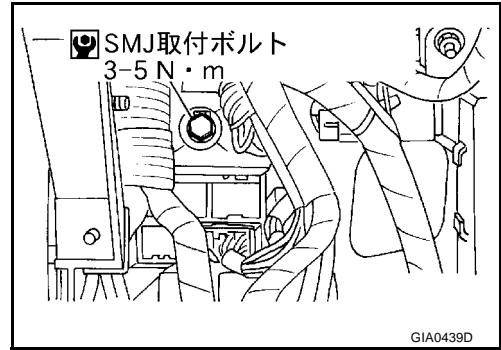


SMJの取り付け

SMJはオレンジ色の印が現れるまで取り付けボルトを締め付け、その後規定トルクで締め付ける。

締め付けトルク : 3 ~ 5 N・m { 0.3 ~ 0.5 kg・m }

注意: SMJが損傷するため、取り付けボルトを締め付け過ぎないこと。



テストランプによる点検

JAS0010S

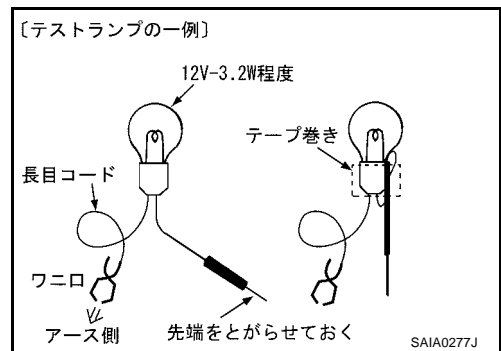
電気系統の故障診断は、通常テスターによる電圧及び抵抗（導通）点検、コネクタ部の断線・端子抜け・かん合状態などの目視点検を行う。

テストランプによる点検は、コントロールユニットの低電圧系（センサー信号線など）・断線寸前の配線・端子の接触不良など、テスター又は目視では発見しにくい部位の探究に効果がある。

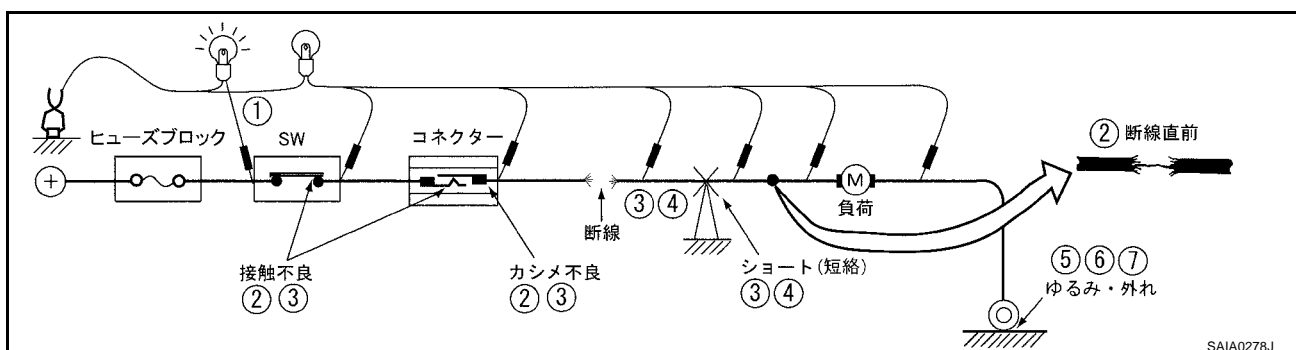
特に、故障診断結果に異常が発見されない場合は、テストランプ点検法を推奨する。

点検要領

- テストランプの一端をボディーアースし、他端を診断経路にあてる。
- ハーネス及びコネクタに軽い振動や引っ張りを与えた時のランプの点灯状態を見る。（消灯状態、明るさの変化など）



診断部位	テストランプの点灯	判定	図例
電源系、低電圧系 (光量半減)	明るく点灯し続ける	正常 又は 短絡 (消灯しない)	1
	光量が少なく点灯する	経路の抵抗大 (断線寸前、経路中のスイッチ類の接触抵抗大、経路に抵抗部品あり)	2
	点滅又は光量に変化する	接触不良、断線又はボディーアースに短絡	3
	消灯のまま	断線又は短絡 (ボディーアースに落ちている)	4
アース系	明るく点灯し続ける	アース不良 (接点の浮き、断線)	5
	光量が少なく点灯する	アース不良 (アース経路の抵抗大)	6
	点滅又は変化する	アース不良 (アース経路の接触不良)	7
	消灯のまま	正常	8



4WD 車の点検整備上の注意

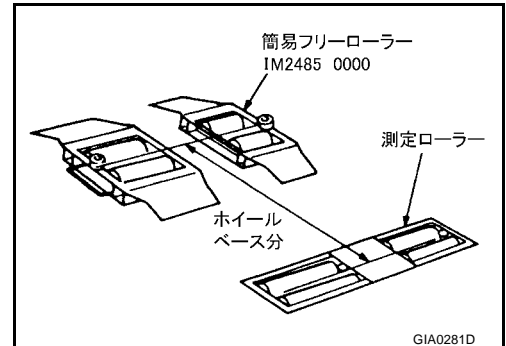
JAS00123

スピードメーター測定要領

スピードメーターの測定要領は以下の2方法で行う。

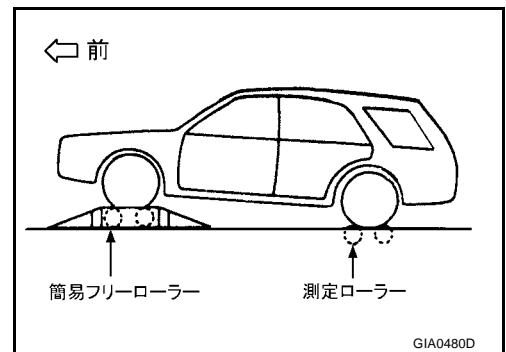
簡易フリーローラーを使用する測定

- 図の通り、簡易フリーローラーを測定ローラー中心からホイールベース（2,850mm）分前にセットする。



- 前輪を簡易ローラーに乗り上げると共に、後輪を測定ローラーに乗り入れる。
- セレクトレバーを2レンジにして徐々にスピードを上げる。

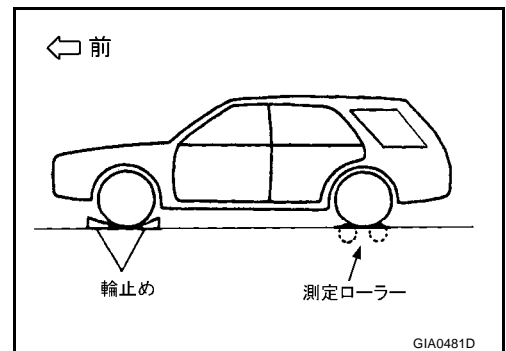
注意：測定中は急ブレーキ、急加速は行わないこと。



簡易フリーローラーを使用しない測定

- 後輪を測定ローラーに乗り入れ、左右の前輪に輪止めをする。
- セレクトレバーを2レンジにして徐々にスピードを上げる。

注意：測定中は急ブレーキ、急加速は行わないこと。



制動力測定要領

低速型テスター測定

注意：低速型テスター以外は使用しないこと。

- ブレーキペダルを踏み制動力を測定するときテスター値がOKゾーンに入るか、また、OKランプが点灯したと同時にブレーキを戻す。
- ブレーキの引き摺り測定時、引き摺り力が軸重の10%を越える場合は、ジャッキアップして車輪の回転状況を検査し、異常がなければ、引き摺りはセンターピスカスの粘性トルクによるもので、ブレーキの異常ではない。

GI

B

C

D

E

F

G

H

I

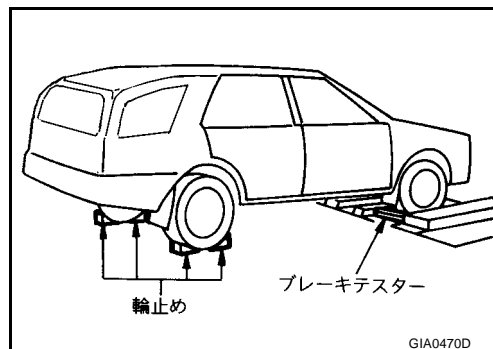
J

K

L

前輪制動力測定

- 前輪をテスターに乗せる。
- パーキングブレーキレバーを引き、後輪に輪止めをする。
- セレクトレンジをニュートラル位置にする。
- フットブレーキの制動力を測定する。



後輪制動力測定

- 後輪を測定する場合は、強制的に 2WD 状態にして測定する。
- 後輪をテスターに乗せる。
- 前輪に輪止めをする。
- セレクトレンジをニュートラル位置にする。
- フットブレーキ及びパーキングブレーキの制動力を測定する。

2WD 状態の測定

- 2WD 状態に設定するには、下記の 4 つの方法がある。
- (a) フロントプロペラシャフトを外す。
- (b) E-TS アクチュエーターのコネクターを 2 個共外す。
- (c) E-TS アクチュエーターリレーを外す。
- (d) E-TS コントロールユニットのコネクターを外す。

注意: (b)、(c) は E-TS が、(d) は ABS がフェイルする為、(b)、(c) では 4WD 警告灯が、(d) では ABS 警告灯が点灯します。通常制御に戻す際は、一旦、キースイッチを OFF にし、エンジンを始動しなおして下さい。なお、各警告灯が点灯しないことを確認した後、必ず CONSULT- にて故障記憶を消去して下さい。

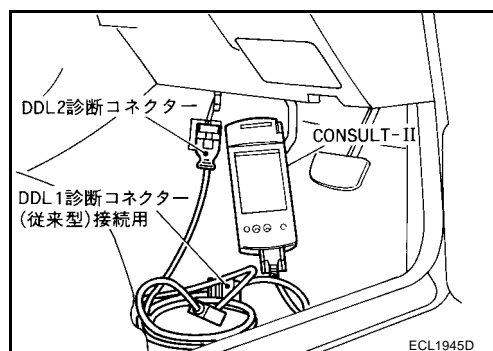
- 上記いずれかの方法で 2WD 状態にして測定する。

CONSULT-

JAS0010T

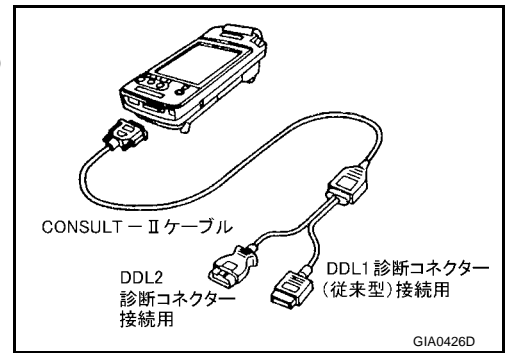
概要

- CONSULT- は、ハンドヘルドタイプの小型軽量テスターで、車両側に設けた診断コネクターに、接続すると車載のコントロールユニットと通信し、各種診断テストが可能である。
- 本車両では、CONSULT- 対応プログラムカード (EG1187 0100) を用いないと診断できないので、必ず用意すること。



一般整備情報

参考：CONSULT- テスターは、車両側 DDL2 及び従来型（DDL1）コネクタに対応する接続コネクタを有している。



機能と適用システム

項目	機能
作業サポート	C/U に命令を送って点検、整備に適した状態を設定する。
自己診断結果	C/U の自己診断を受取り、不具合系統、不具合回数を表示する。
自己診断結果 [記憶]	C/U が記憶している診断結果を表示する。
データモニタ	C/U の入出力信号を受取り、表示・記録して不具合原因の発見を容易にする。
データモニタ [参考値]	
アクティブテスト	C/U に指令を送り、出力信号を任意に変化させて出力系の作動点検を行う。
ファンクションテスト	ファンクションテストが行える。
故障履歴表示	過去の「記憶消去」実行前の C/U が記憶していた故障結果を表示する。
C/U 部品番号	C/U の部品番号を表示する。
C/U 識別番号	C/U の識別番号を表示する。

診断システム	エンジン	A/T		ABS	エアバッグ
		4A/T	5A/T		
作業サポート					
自己診断結果					
自己診断結果 [記憶]					
データモニタ					
データモニタ [参考値]					
アクティブテスト					
ファンクションテスト					
故障履歴表示					
C/U 部品番号					
C/U 識別番号					

診断システム	BCM (BODY CONTROL MODULE)			
診断部位 (画面表示)	ドアロック、リヤデフォッグ、キー抜き忘れ、ライト消し忘れ、RA (パワーウインドー、サンルーフ電源)、ワイパ、フラッシャー、リパース警告	ルームランプ、キーレスエントリー、ヘッドランプ	コンビスイッチ、シグナルバッファ	BCM C/U
作業サポート				
自己診断結果				
データモニタ				
アクティブテスト				

ジャッキ・リフトアップ支持位置

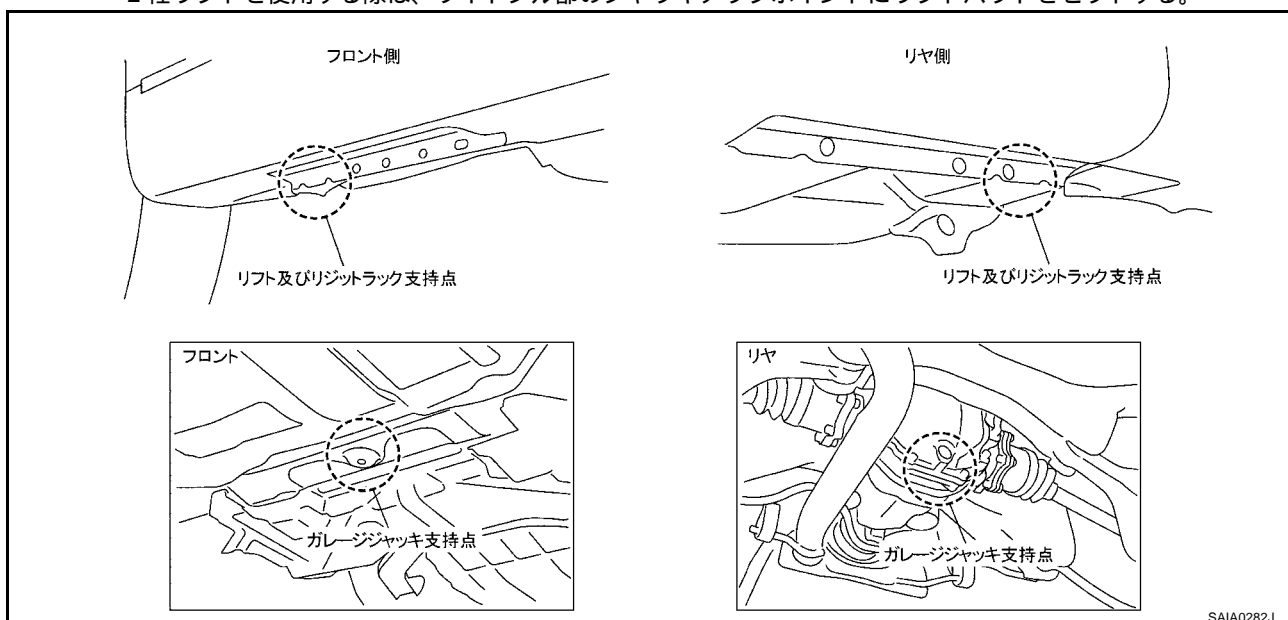
注意：・リフトアップは必ず空車状態で行うこと。

- ・フロント部の主要部品（エンジン、トランスアクスル、サスペンションなど）取り外し時、車両の重心位置が変わるので、リア側のガレージジャッキのジャッキアップポイントをミッションジャッキなどで支えること。
- ・リア側の主要部品（リアアクスル、サスペンションなど）取り外し時、車両の重心位置が変わるのでフロント側のガレージジャッキのジャッキアップポイントをミッションジャッキなどで支えること。
- ・パイピング類をつぶしたり、干渉したりしないように注意すること。

2柱リフト、ガレージジャッキ、リジッドラック支持位置

注意：・ガレージジャッキを掛ける場合は平坦な場所で作業すること。

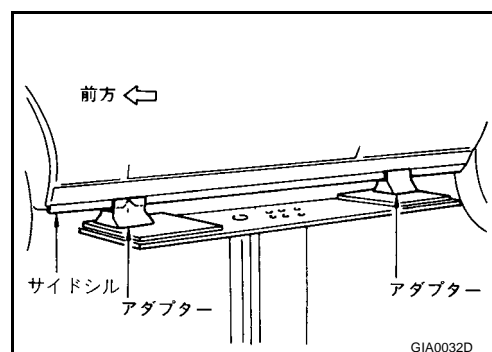
- ・フロント側（リア側）をジャッキアップするときは後輪後側（前輪前側）に輪止めをし、リジッドラックで支持したあと後輪（前輪）両側に輪止めをしないこと。
- ・ジャッキで支持しただけで作業をしない。作業をするときはリジッドラックで支持すること。
- ・リジッドラックには必ずアダプター（LM4519-0000）をセットし、車両のジャッキアップポイントに当てること。
- ・アンダーフロア部のサイドメンバー部及びフロア面には、絶対にリジッドラックを掛けないこと。
- ・2柱リフトを使用する際は、サイドシル部のジャッキアップポイントにリフトパッドをセットする。



ボードオンリフト支持位置

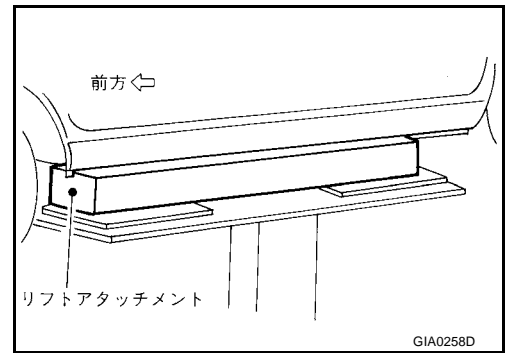
ボードオンリフト用アダプター（LM0486-0200）を使用の場合は、サイドシル部のジャッキアップポイントにアダプターをセットする。

注意：前後のジャッキアップポイントにセットできないボードオンリフトの場合は、下記のリフトアタッチメント方式にて行うこと。



一般整備情報

- リフトアタッチメント (LM4086-0400) を使用の場合は、中央にサイドシルが当たるようにセットする。



GI

B

C

D

E

F

G

H

I

J

K

L

けん引

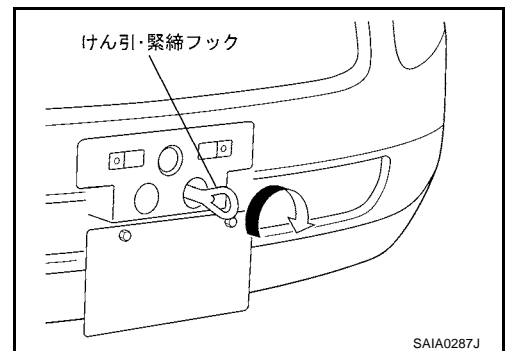
JAS0010V

けん引フック位置

フロント (AR-X 以外)

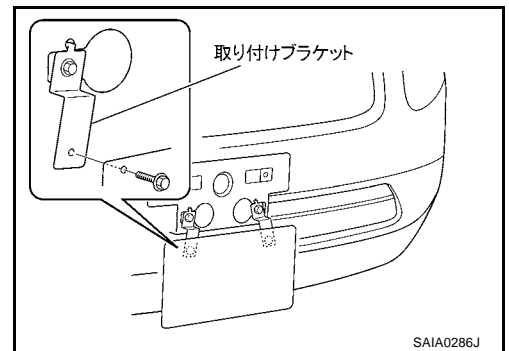
- ナンバープレート取付ボルトをスパナ (車載工具) で外し、ナンバープレートを取り外す。
- ナンバープレートを下方へずらし、取付ボルトで固定する。
- ねじ込み式けん引フック (車載工具) をホイールナットレンチを用いて車両へ確実に取り付ける。

注意: ロープがバンパーに直接当たると、塗装面に傷を付ける恐れがあるため、ロープは布などで必ず被覆すること。



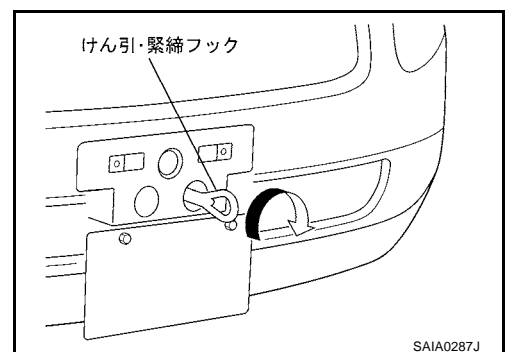
フロント (AR-X)

- ナンバープレート取付ボルトをスパナ (車載工具) で外し、ナンバープレートを取り外す。
- 取り付け金具を車両にボルトで取り付け、さらにナンバープレートを取り付け金具に固定する。



- ねじ込み式けん引フック (車載工具) をホイールナットレンチを用いて車両へ確実に取り付ける。

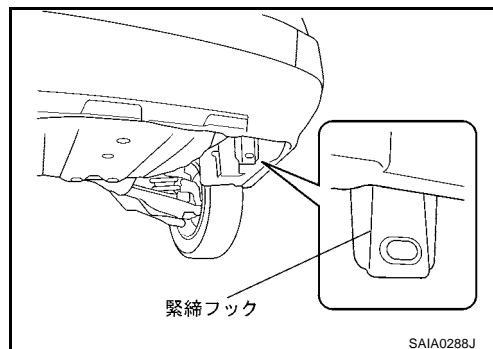
注意: ロープがバンパーに直接当たると、塗装面に傷を付ける恐れがあるため、ロープは布などで必ず被覆すること。



一般整備情報

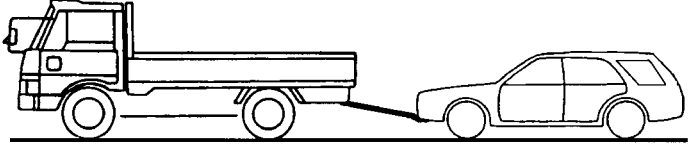
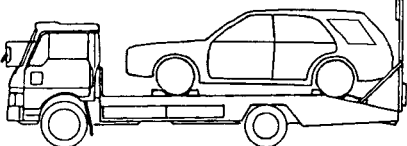
リヤ

注意: サイドメンバー右後方についているフックは緊締用のため、けん引には使用しない。



けん引方法

注意: ・ オートマチックトランスミッション車のけん引は 30km/h 以下の速度で 30km 以内の距離とすること。

けん引（移動）方法	鍵の有無	けん引（移動）のため
4輪接地 	有り	<ul style="list-style-type: none"> ・ パーキングブレーキを解除する。 ・ セレクトレバーをニュートラルにする。
	無し	×
車載 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両を確実に固定する。

GIA0477D

標準ボルトの締め付けトルク

JAS0010W

種別	呼び径	ネジの直径	ピッチ	標準締め付けトルク (潤滑なし)			
				標準ボルト		フランジ付き	
				N-m	kg-m	N-m	kg-m
4T	M6	6.0	1.0	5.1	0.52	6.1	0.62
	M8	8.0	1.25	13	1.3	15	1.5
			1.0	13	1.3	16	1.6
	M10	10.0	1.5	25	2.5	29	3.0
			1.25	25	2.6	30	3.1
	M12	12.0	1.75	42	4.3	51	5.2
1.25			46	4.7	56	5.7	
M14	14.0	1.5	74	7.5	88	9.0	
7T	M6	6.0	1.0	8.4	0.86	10	1.0
	M8	8.0	1.25	21	2.1	25	2.5
			1.0	22	2.2	26	2.7
	M10	10.0	1.5	41	4.2	48	4.9
			1.25	43	4.4	51	5.2
	M12	12.0	1.75	71	7.2	84	8.6
1.25			77	7.9	92	9.4	
M14	14.0	1.5	127	13.0	147	15.0	
9T	M6	6.0	1.0	12	1.2	15	1.5
	M8	8.0	1.25	29	3.0	35	3.6
			1.0	31	3.2	37	3.8
	M10	10.0	1.5	59	6.0	70	7.1
			1.25	62	6.3	74	7.5
	M12	12.0	1.75	98	10.0	118	12.0
1.25			108	11.0	137	14.0	
M14	14.0	1.5	177	18.0	206	21.0	

- 注意:**
- 特殊部品は除く。
 - 本表を使用出来るボルトは頭部に下記の数字が浮き出しになっている。
 種別 数字
 4T ... 4 又は記号無し
 7T ... 7
 9T ... 9

パワーツール使用に関する注意

JAS0016R

パワーツール (エアラチェット・インパクトレンチ等) の使用はボルト・ナットを緩める時のみとし、締め付け時には使用しないこと。また熱履歴を受ける部位 (触媒・マフラー等の排気系部品)・タッピングスクリュー等は緩める時にも破損する可能性があるため、緩める場合もパワーツールを使用しないこと。

車両識別情報

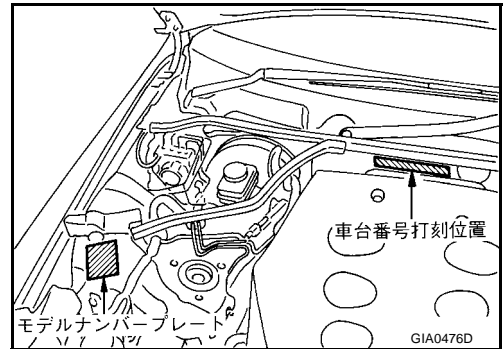
PFP:00010

車台番号打刻位置及びモデルナンバープレートなど

JAS0010X

- 車台番号の打刻位置は、カウルトップパネル中央である。

車種型式	車台打刻実施始番号
GH - M35 型	M35 - 100001 ~
GH - HM35 型	HM35 - 200001 ~
GH - NM35 型	NM35 - 300001 ~



- モデルナンバープレート

NISSAN MOTOR CO,LTD.JAPAN

型式	TYPE	TIPO	△		
CHASSIS NO					
NO DE CHASSIS			△		
MODEL					
MODELO			△		
カラ- COLOR TRIM			△	△	識別 ○
トリム COLOR GUARNICION					
エン ENGINE			△	△	CC
ジン MOTOR					
ミッション TRANS AXLE			△	△	
アクスル TRANS EJE					
				工場	PLANT
				PLANTA	
日産自動車株式会社					MADE IN JAPAN

- ① 型式
- ② 車台番号
- ③ 車種記号
- ④ 車体色
- ⑤ 内装色
- ⑥ エンジン型式
- ⑦ エンジン排気量
- ⑧ トランスミッション型式
- ⑨ アクスル型式

GIA0018D

GI - 22